

いつでもいいよ、
羽を休めにおいで

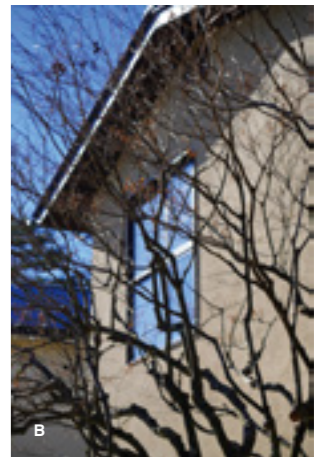
No_ **04**
Example Report.

Builder:
工房信州の家
(フォレストコーポレーション)

Note:
軽井沢町/N邸
家族構成/5人



A_和と北欧が調和して、温かみのなかに洗練された風合いを感じさせるジャパンディなインテリアスタイル。薪ストーブの炉壁や炉台に使った鉄平石がアクセントになっている。 B_この土地の前の持ち主が大事にしていたドウダンツツジはそのまま残した。土地の記憶を残す木も、この新しい家を歓迎しているよう。 C_切妻屋根の上品な2階建て。その外観にホッと心が安らぐ。 D_玄関の目隠しに格子を施し、門塀を浅間石で施工した。その土地の素材は、新しい家もその環境に馴染ませてくれる。



欲しかったのは
明日からまた頑張るために
家族が合流できる場所

普段、中信地域で暮らすNさん夫妻が軽井沢にこの家を選んだのは、親元を巣立ち今は東京で暮らす長男、次男も含め家族5人が集まって過ごす時間のためでした。「いつかは自分も軽井沢に別荘をもっとみたいと夢みていた頃もあります。でも、欲しかったのは、仕事をリタイアした後に森でのんびりと夫婦で過ごす時間ではなく、現役世代の今、私も息子も明日からまた頑張る時間のために、リフレッシュする時間であり空間だと気づいたので」

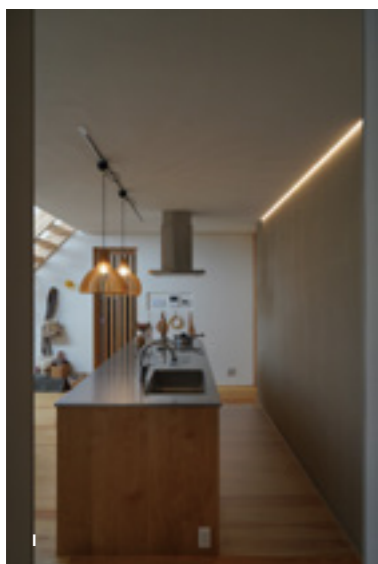
ご主人の言葉に奥様も頷きます。「老後のことで子どもたちに迷惑をかけないよう貯金するより、自分たちが元気な今、大事な人との時間にお金を使いたいと考えを改めました」

軽井沢なら、自宅からも東京からもアクセスが容易です。土地は観光客で賑わう通りから一本外れた住宅街を選びました。昔から軽井沢で暮らす周りのお宅とも、すぐ隣の緑とも馴染む上品な外観の建物に、浅間石の塀や玄関前の格子がさりげなく特別感を添えています。

その雰囲気は誘われ室内に入ると、吹き抜けから差す柔らかな光に包まれたLDKが迎えてくれました。心も体もほぐれていくのが分かります。「ざっと入ればなしにしていたスイッチを、ここならオフにしたいんだ」。そう思えます。



E_種類の異なる照明によってニュアンスの違いがうまく溶け合ったダイニングキッチン。キッチンはクリ材で造作したオリジナル。高さは、主に料理をするご主人の身長に合わせた。 F_家族5人のうち男性が4人。愛犬さくらちゃんは奥様の愛娘でもある。 G_薪ストーブは煮込み料理にも使う。ガラス窓が大きな機種で、炎の揺らめきも癒やしを与えてくれる。 H_土間サロンはリモートワークにも使える。現役世代のセカンドハウスには、格好のビジネス空間だ。 I_キッチン背後に食器棚を設けていないので、よりスタイリッシュに間接照明が映える。

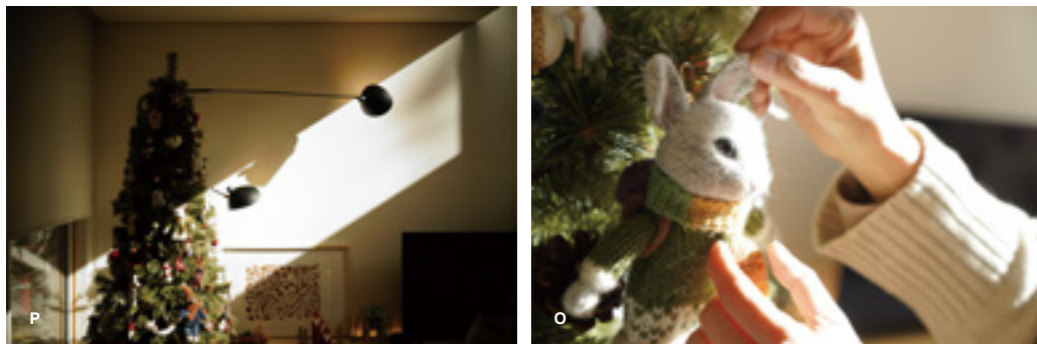


工房信州の家といえば、土間サロンも忘れてはいけません。軽井沢展示場の土間サロンを見て、N家の男性4人が心をわしづかみにされたその意匠と存在感をこの家に再現。床のレベルを周りより低くし、内装素材を変えたことで、LDKとは異なる空気の中で家族が語らい、緑と親しみ、テレワークに勤しみ、ときにゲストをもてなすことができます。子育て世代にとって家とは家族が育つ場所です。その家は子どもが巣立った後は「帰る」場所になるでしょう。この家は、大事な人と楽しい時間を過ごすとともに、家族が「合流する」場所です。毎日を懸命に生きている一人ひとりが、その羽を休めに集う場所。心を許せるから元気を回復し、また夢に向かって羽ばたいていく家族の、その夢を支え合える場所となるのです。

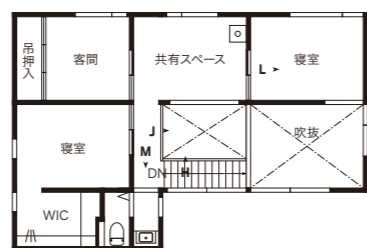
ご夫妻も、家づくりを任せられた工房信州の家も、大切にしたいのは「軽井沢に来た」ことで気持ちのスイッチがオンからオフへ切り替わる非日常性です。でもそれは、ホテルに施される演出とは別の、家族が家族であるためのくつろぎでした。南側のお宅を気にすることなく、日差しをたっぷり取り込める窓計画。その窓を抱く吹き抜けの開放感。和の伝統と北欧の心地よさを併せもつジャパニーズなインテリア。間接照明がつくる明と暗のあわい。

毎日を懸命に羽ばたく
一人ひとりの
夢を支え合う場所



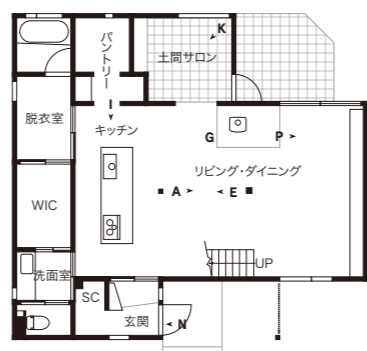


O・P_手芸が得意な奥様はツリーのオーナメントも自作する。つくる時間、飾る時間の楽しさは、これを囲む家族の時間の楽しさにつながっている。



PLAN

2F



1F

DATA

敷地面積	274.98㎡	(83.02坪)
延床面積	139.52㎡	(42.12坪)
1F面積	86.53㎡	(26.12坪)
2F面積	52.99㎡	(16.00坪)

工法/木造在来軸組工法 基礎/ベタ基礎 構造材/柱:スギ4寸角、梁:スギ・ヒノキ、土台:ヒノキ4寸角 断熱材/屋根・壁:押出法ポリスチレンフォーム100mm、基礎:立ち上がり:押出法ポリスチレンフォーム75mm、他:押出法ポリスチレンフォーム25~50mm 主な外装仕上げ/屋根:ガルバリウム銅板、外壁:塗り壁・一部スギ板張り 主な内装仕上げ/天井・壁:珪藻土・一部カラマツ板張り、床:アカマツ無垢材 開口部/Low-E複層三層ガラス(クリプトンガス入り)他 キッチン/オリジナル木製キッチン キッチン熱源/IHクッキングヒーター バスルーム/TOTO サザナ 暖房の種類/薪ストーブ・エアコン



Owner:
Nさんご家族

Q1. 家づくりで一番大切にされたことは?

A 普段違う場所で頑張っている家族がここに集まってリラックスできること。明日からまた頑張るために元気を回復すること。

Q2. こうしておいてよかった、と思ったことは?

A 外の視線が気にならず、カーテンも要らない吹き抜けの窓。ビジネス空間にもなる土間サロン。間接照明も含めたインテリア。

Q3. このビルダーさんに頼んでよかったことは?

A 家づくりの考え方、家のテイスト、スタッフさんとの相性だけでなく、施工後の気配りも素晴らしいこと。



Builder:
担当/山岸さん

Q1. この家のコンセプト、ポイントは?

A 家族が集って安らげるセカンドハウスとしての非日常感。温かみと洗練を備えたジャパニクテイなインテリアスタイル。

Q2. この家の見どころを3つに絞るなら。

A 土間サロンとその配置。近隣のお宅を意識して、吹き抜けに設けた大開口。間接照明だけでも過ごせる照明計画。

Q3. 家づくりで一番大切にしていることは?

A 家族が本質的に大切にしていることを感じ取るために、家に関係のないことも含めて、お打ち合わせの会話を楽しむこと。

J_2階に上がると吹き抜けの開放感がいっそう感じられる。窓からの光が白い壁と天井に拡散し、冬の寝冷えでも大空間がすみずみまで明るく暖かい。 K_土間サロンの床は薪ストーブの炉壁と同じ鉄平石。天井はカラマツで仕上げた。ご主人がこだわった仕事場であり、社交場。 L_長男、次男がこの家に来たときに使う寝室。三兄弟は口をそろえて「この家は、めっちゃ寝れる」と話すそう。 M_2階の洗面やトイレとの仕切りとなる下がり壁を三角に切り取った。階段手すりの黒いアイアンとの相性もいい。 N_グレーの壁と木部の組み合わせがクールな玄関。照明を工夫してホッと落ち着ける雰囲気を出した。